

ψ ψ ψ ψ ψ ψ ψ

第 49号

執筆者 @ 短信

高木 久美子 新連載

初めて投稿します。意思疎通支援の活動について書いていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。対人援助学会サイトのトップページに書かれています「研究だけに留まらない 実践だけでも留まらない」。この言葉に勇気づけられて思ひ切って入会しました。マガジンを読むのが大好きです。これからは自分も書けることがとてもうれしいです！

ヨミトリとヨミトリ君でご一緒しましよ！

P308～

きむら あきこ

本編に記載しましたが、5 月に転居しました。転居後の生活が始まると、住宅の不具合が幾つか見つかつて、その対応に追われているうちに、マガジン締め切りのことをすっかり忘れていました。転居前後で、体の不調もあって、通院や服薬の日々です。「老化だな」と思ふことの一つに、大好きだったミステルのアルバム購入や配信ライブの申し込みを後回しにしていること。興味関心がどんどん薄れていくのは、生活行動に精一杯だからだと感じます。夏はもう少し元気にありたい。

かぞくのはなし

P 306～

原田 希

亡き母の思ひ出の椿。その挿木が北海道までやってきた。母が20歳の頃に購入した、お正月飾りの椿の盆栽。結婚後実家を離れた母の代わりに、母の弟(叔父)が地植えて育ててくれていた！叔父も終活を考える年齢になり、「あなたの母が気にかけていた椿だから、手元で大きく育ててください」、とのこと。初めて聞く話だった。54 年前の椿との再会に、私の中にいる母が喜んでいる。暖かい地域の木だし、挿木は赤ちゃんなので繊細なお世話が必要だけど、北海道で根をはらせてみようと思う。うまくできたら叔父に連絡しよう。私の知らない昔話をまた聞かせてくれるかもしれない。



休載

野中 浩一

フリースクール(高校生対象)を運営する中で、そのときどきのメンバーによる楽しみを一緒につくることを大切にしています。今年は「バドミントンとか卓球とか部」を結成。結成当初は「人集まるかな？」と半信半疑でしたが、ふたを開けてみると29 人の生徒のうち 15 人が参加する一大イベントに。生徒たちに「正式な部にするかは、活動が継続するかどうかを見て決めよう」と伝え、活動をスタートしました。

そして1 か月。毎週月・火の練習日は活況。高校生も職員も「一緒に活動」を基本としており、私も 44 歳ながら高校生たちと一緒に毎週バドミントン。やるからには上手くなって良い試合がしたいと、日曜もときおり体育館を借りて家族でバドミントン。張り切りすぎたためか、腰に違和感が・・・。

「島根の中山間地から Work as Life」

P299～

畑中美穂

娘に女の子が産まれてから結構、日が経つ。それなのになかなか「孫」という言葉が使えない。ちょっとした抵抗も感じるのである。使わないので「使い慣れない」でもなく。ところが一度だけ、使ったことがある。まだ産後一月も経たない頃、スーパーで買い物をして人を待っていたとき、たまたま傍にいた年配の女性に話しかけられ、雑談をするなかでつい。

「孫が産まれましてん」。

「あら！ 男の子？ 女の子？ どっち？」「女の子」「あら～、そらええわ。女の子はよろしな」

そして別れた。自分でもなぜ唐突にその話をしたのか、しかしこの時、私は「孫」と言った。もし男の子だったとしても、その人は「男の子はよろしな」と言ったのではないかなと思う。孫と言えば簡単に通じるのであり、だからそれが言葉というものの所以なのだと思う。それなのになかなか、私は「孫」という言葉を使えない。まあいいか、とも思ふこの頃である。

一語一絵

P258～

渡辺修宏

皆様のおかげさまで執筆させて頂いております。こうやって「書く」ことによってはじめて、普段思っていること・考えていることが

「他者にどう伝わるのだろうか」という、新たな視点が強められます。これって客観？ 俯瞰？ 間主観？ …うわっ！ 意外とはっきりしない。

(小幡知史・渡辺修宏・二階堂哲)

対人援助実践をレポートする

この一冊

P291～

米津達也

仲間と山を登る機会が増えた。これまでは、独りで登ることが多かった。山の天気は気まぐれだし、前日夕方に出掛けることを決めたり、逆に中止することも多々ある。そのたびに予定を調整するのが面倒で、ソロの気楽さを優先してきた。

いざ仲間と歩いてみると、煩わしさもあるが、いろいろ共有することが多い。そんな

なメリットを中年になってようやく感じている。

川下の風景

P283～

高井裕二

知り合いから「対人援助学マガジンの記事、読んでよ」と数名に声をかけていただきました。いずれも非会員の方でしたが、読者が一定数いるというのは嬉しく思うとともに身が引き締まりますね。これからがんばります！！

福祉教育への挑戦

P288～

本間 毅

今回と次回、私は「幾度となく会い、語り合うことの意味」を改題し、「新潟水俣病概論Ⅰ（歴史）」、「新潟水俣病概論Ⅱ（症候と認定基準の変遷）」を書き下ろします。

本学会 HP のお知らせ欄でも紹介しましたが、近秋の第 14 回大会は新潟を拠点にオンラインで開催することが決まりました。テーマは『新潟水俣病と私たち』です。この「新潟水俣病概論Ⅰ・Ⅱ」で、会員や大会参加者の皆様が「新潟水俣病」を知るきっかけを作るというのが、大会委員長を拝命した私の目論見です。熊本で加害企業と対峙して自主交渉を続けた川本輝夫さんは、「水俣病の被害は、生命・身体の破壊、環境破壊、コミュニティの破壊に分けられる」と述べました。水俣病では、発生機序、原因究明、診断や認定の過程に、国の「高度経済成長政策」が影響したことで被害は多層的に拡大し、いまだ最終的な解決をみていません。

本大会は、会の詳細や演題募集の告知を例年より早く進め、第 26 回と 27 回の「研究会」で「新潟水俣病概論Ⅰ・Ⅱ」の、オンライン講演も行う予定です。

新潟水俣病について、私たち皆で考えてみましょう。

新潟水俣病概論 1（歴史）

P264～

土元 哲平

年度が変わり、私自身も、家族も、新しい生活に向かっています。そうした中で、「未来が不確かである」とはどういうことなのかを考えたいと思い、今回の記事を執筆

しました。書き終わった今、当初考えていた問いに答えが出たわけではありませんが、少しでも考えが深まったと感じています。どういった着地点に行き着くのか分からないという「偶有性」があるからこそ、執筆は不安ですが楽しいのかもしれません。

キャリアと文化の心理学

P259～

玉村 文

2022 年 4 月に育休から職場復帰しました。仕事復帰してから一ヶ月。新鮮な気持ちで働きながら、子育てとの両立を楽しめています。一方で、職場の中堅職員の疲弊度がすごく高く、自分との違いに驚愕してしまいました。中堅職員と私の間に、大きな違いはないはず。その疲弊感に染まらないように、自分の働き方をマネジメントしていかなければ。とはいえ、この社会を構成する一人でもあるので無関係には過ごせない。日々、しんどい大変なことが起こる中、自分をその中で消費しないで生きるために、何ができるのか模索していると思います。



応援 母ちゃん！

P250～

川畑 隆

30～40 歳近く年下の人たちと一緒に仕事をするようになって、その人たちに助けられている感をとて強もっています。

もともといいかげんなところがあり、そのうえに記憶力と注意力の減退が重なって自分自身のことが信じられなくなってきている分、頼れる人たちがいるというのは心強いものです。まだ 67 歳なのでそんなに老け込むことはないとは思いますが、若者との差は出ますね。

老人の仕草やしやべり方というか声の出し方を、わざわざ意識してやっていると

ころが最近あって、演技とホントが混ざってるんですが、これもまだ自己防衛のあらわれなんでしょうか。頓珍漢なことを言うて（それは演技じゃなくてホントなんです）それが恥ずかしくて老人だからまあいいかと自分を納得させたり、頓珍漢な言葉を否定してもらって正しい道を選択してもらうのが頓珍漢の意義であり役割だと正当化してみたり、これって若い時に読んだ老人心理の本のどこかに書いてあったかな。

「若い者にゃ負けん」とか言いますが、負けてます。いずれにせよ、バトンタッチの時期は来ています、というかもう過ぎてますね。

かけだ詩

P245～

高名祐美

平日毎日勤務からパート勤務へ。週 3 日、週の真ん中、火・水・木と働く。土日をはさんで金曜日から月曜日まで休日。働く日数より休日の日数が多い。最初は物足りないような気分だったが、このサイクルになじんできたこの頃。

平日の休日。今までできなかったことができる。銀行や郵便局に出かけたり、図書館に出かけたり。時間を持て余すことがないのが不思議である。

今日は、朝から近くの山に行き、夫はタケノコを掘る。私は水ぶきを採る。藤の花や山つつじ、たにうつぎの花が美しい。緑の中にうす紫、オレンジ、ピンクの花。大きく息を吸い込み、花を眺める。家に帰り、水ぶきの葉をとり、大きな鍋でゆでる。きれいなグリーンに変わる。花は生け花にし、タケノコ・ふきはお昼ご飯のおかず。あつという間に時間が過ぎる。

対人援助はやりがいのある仕事だが、こんなふうに言葉をもたない自然のものと向き合うのもまた楽しい。

フリースクールでのSW実践を考える

P243～

岡田隆介

今回は「独りでリフレクティング」をやってみた。「一人のリフティング」と違って形容矛盾だが、フリーイラスト素材の選択と調整が楽しくて没頭した。

「才能は“好き”の傍らに眠っていて、見つけられるのを待っている」らしい。パワポ

芸を天職に！遅すぎる転職か？

エア絵本

ビジュアル系子ども・家族の理解と支援

P42～

一宮 茂子

【ロシア軍のウクライナ侵攻】

いま世界中で話題になっているウクライナ。SNS で調べるととても複雑な背景があることがわかります。1991 年ソ連崩壊後にウクライナが独立して誕生。以降、大統領選挙では親口派と親欧米派が争ってきたのです。2004 年には親欧米派政権が誕生する「オレンジ革命」が起きましたが、次の選挙では親口派が勝利。その親口派政権も 14 年に崩壊します。ロシアが反発してクリミア半島に侵攻し、併合を宣言。それまでに数名の大統領が代わり、2019 年ゼレンスキー氏が NATO 加盟を公約に第 6 代大統領となりました。2022 年ロシア軍がウクライナに侵攻して連日メディアで取り上げられています。



平和な日本にいと TV 画面でその惨状は理解したつもりでいても現実はずっと凄まじいことが起きていると思います。私にできることはただひとつ「募金」くらいです。いつまで続くかわからないロシアの侵攻。心ばかりですがウクライナのために「日本ユニセフ協会」に寄付いたします。

生体肝移植ドナーをめぐる物語

P237～

松岡 園子

今年度から高校での金融教育が必修化されましたが、10 代、20 代で家族のケアを担っている若者だけに限らず、小学生の頃からお金の教育を受けているかどうかということが、その人の人生の質を左右することもあるのではないかと考えています。

私は 10 代から生活を支えるために働く必要がありましたが、ただ働くばかりでした。しかし、働いて得たお金を守っていくことの認識が薄いと、今号で描いたテーマのように一瞬で無くなってしまうことも考え

られます。私自身もお金の教育を受けてきておらず、家庭内でもそうした話をすることはありませんでした。そのため、他の方よりもお金を守ることについての認識の甘さを感じることがあります。

計画的に使う、詐欺に遭わない、はっきりと断る。

ケアを担っている若者だけに限らず、知識や知恵として知っているだけでも自分や家族を守ることができることがあるのなら、今後、そうした若者への教育活動にも携わっていきたくと考えています。

統合失調症を患う母とともに

生きる子ども

P233～

杉江 太郎

福祉部門の行政機関で働く杉江と言います。少し前のお話ですが、カフェドウスギエのコーヒーが手に入らない時期がありました。Amazon で注文しようとしても品切れ、スーパーで買おうとしても売り切れ……。もともと輸入品らしいので、おそらくコロナ等の影響でしょう。同じような話で、施設を新設されている園の施設長さんも、木材が輸入されてこないから、工期が遅れていると話していました。それ以外にも、ガソリンの高騰、小麦製品の値上がりなど考えると、今後、カフェドウスギエの仕入れ値も値上がりすることが十分に考えられ、ついにコーヒーも値上げをしなければいけないかもしれません。そういえば、1本 10 円の某棒が、12 円になったとか……。そのことを思うと、まだまだ短い商売。長く続けられる方法を考えていきたいものです。

「余地」-相談業務を楽しむ方法-

P229～

浅田 英輔

青森県は、心理判定員の採用もなかなかがんばっている。R3 と R4 で 8 人の新採用があり、兎相にいる同年代たちはその育成にいろいろと苦労しているようだ。20 年以上前になるが、私も偉そうな新人だった。新採用 7 人が毎月集められ「心理テストカンファレンス」として検査のことを学んだ。第 1 回の題材は田中ビネー。「初めて田中 B をとるときに、ビデオ撮影しろ」という指令が下され、カンファレンスでみんな

で見てみるものだった。偉そうな私は「ちゃんとやりました！」というが、実際の映像は手順や教示がおかしなものだった。これは非常に恥ずかしい。でもここで「うー、はずかしい、偉そうにいつて間違ってるし！」とちゃんと落ち込むことは大事なかなと思ったりもする。イマドキの若者は間違いたがらないというが、間違いを認めるってこんなことでも難しいのかもしれないと思う。間違いを認められた若かりし自分はエライ！

臨床のきれはし

P132～

三浦 恵子

昨年 2 月に引き続き、3 月 16 日に東北で大きな規模の地震が発生した。

当方は遠距離介護をしていた関係で週末に抗原検査をした上で仙台に帰ることが多い。週明けは「はやぶさ」の始発に乗れば 8:30 から業務を開始できる。しかし地震が起きた週は、新幹線に乗る直前に転倒し肋骨骨折により救急搬送という体たらくだった。骨折を繰り返していた箇所ではあったがさすがに痛みが強く、医師からの安静指示もありすぐには動かず少し安静にしてから勤務先に戻る段取りをした矢先の地震だった。

そうすると「変なスイッチ」が入ってしまい、どんどん片付けなどをしつつ仕事もし、挙句は夜行バスで勤務先に戻るという強行軍をやってしまった。気力でなんとか凌ぐ

つもりだったが、体は正直なもので、夜行バスの揺れで痛みをこじらせ長引かせることになった。反省しきりである。ただ、ロシアとウクライナの情勢が急速に悪化していた時期でもあり、資材が十分入らず修繕などは遅れがちである。損壊した物置一つを買い替えるにも今回の戦争の影響があった。

そういうわけで連休中もおとなしく読書に勤しむ日々だった。業務に関係する大きな法改正などもあったためチェックしておきたい専門書が山のようにある一方、「読みたい」本もこれまた多くある。

今回は「スープとあめだま」(ブレイディみかこ作)という絵本(といっても大人も十分考えさせられるもの)に魅かれた。実際に御子息が体験されたことがベースとなっ

た本である。フードバンク活動等の端に加わっているものとして考えさせられた。その一方で、配偶者が読んでいた「犬神家の戸籍「血」と「家」の近代日本」(遠藤正敏氏)も、戸籍関係の研究が多い著者ならではの視点に興味深く、配偶者の読了を待っているところである。

更生保護官署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という

観点から考える

P218～

迫 共

所属先が変わり、住まいも変わりました。3月上旬に静岡から広島へ。2日ばかりで慣れない高速道路で車を移動させました。荷積みと移動と荷降ろし。職場と住まいを全部一気に。もう2度としたくないくらい疲れました…。

県をまたいでの転職・転勤は大きなギャップでもあります。

荷物を整理し、人間関係や仕事も整理して、多額の引っ越し費用と時間、労力を負担して行のですが、自分が身近に置いてきたものやこだわってきたことの価値を見直すことにもなるので、「人生の棚卸し」にもなります。

「ストレス対策には環境を変えるのが一番」と言います。今のところ、その意味を噛みしめられる程度には新しい環境を楽しめています。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ

P225～

黒田 長宏

5月11日。4日前だったかな、健康診断の結果をみたら、乳首のような陰影が広がっているかも知れないというので、本日再検査をした。CTをした。スタッフ構成の関係で結果をみた当日から数日、不安ながら今日を待っているしかなかった。そして結果だが、乳首のようなというよりも、それは乳首だった…。

<https://konrankyuuujotaijimodofree.com/>

あゝ結婚

P204～

尾上明代

月に一回、文字通り身体を整えるために、整体を受けている。才能と技術を師匠である父から受け継いだ整体師 T さんは、毎回、最初に背骨を順に触るだけで、最近の私の生活状況や感情などがすべてわかってしまい、驚きを通り越して感動を覚える。ちょうど今日受けたのであるが、「食べ過ぎですね。特に甘いものが増えていようなので、何とか控えてください。」「目の疲れが酷いですね」と言い当てられた。最近、いつも以上に大量の仕事と取り組んでいて、一日、いや夜中まで PC の前に座っていることが少なくなかった。そんな自分を癒し喜ばせるものは、美味しいごはんとおやつ、夜中のデザートだった…。

そして、今日の私の身体には、その整体で言うところの「ねじれ」があると言う。それは一概に悪いものではなく、スポーツ選手などによくみられるとのこと。いわば「戦闘モード」でやる気が満ちて何かに立ち向かっている状態だと言われた。私が「その通りで、今、多くの仕事を頑張っていると」と伝えると、T さんは、「では、ねじりはとらないでおきますね。とってしまうとやる気がなくなってしまうので」と教えてくれた。あとは、水分が足りてないのでもっととること、お風呂に浸かるのは短時間にとすること、足首をよく回すこと、そのとき内側に回して終了すること—もちろんこれは、「今の私の状態」用のアドバイスである。甘いものを控えるのが一番こたえそうだが、ハチミツは OK とのことなので、夜中はヨーグルトとハチミツにでもしよう。

ドラマセラピーの実践・手法・研究

P101～

松村奈奈子

修学旅行生が再び訪れるようになって、京都の街はちょっとにぎやかに。なので、私も旅に行きたくなり富山県の東部にふらっと出かけました。

小さな街の小さな観光案内所を訪ねて、地元の方からいろいろお話を聞くのが好きです。魚津市の小さな観光案内所のおばさんは「東山円筒分水槽」を熱心にススメます。「円筒分水槽」って何かも知らないまま行ってみたら、ちょうど雪解け水で、流れはなみなみとして美しく、魅了されて1

時間ほど眺めていました。日本一美しい「円筒分水槽」だそうです。やっぱ、旅っていいなあ



精神科医の思うこと

P169～

柳 たかを

聖書から考えたこと

人の肉体は魂の入れ物、私たちは人の外面を見ているが、神は人の魂だけを見ておられる、その人の外面の美醜や富者が貧者かは関係ない。

聖書にあるアダブとナビブの滅びとその死の意味、モーセの兄アロンは主(神)につかえる司祭でアダブとナビブの二人は司祭職を継ぐ長男と次男。

ある日、二人は酒に酔い、主にささげる聖なる火のルールを自分の考えで無視して行なったため、主の怒りを受け焼き殺されてしまった。

これだけを聞くと主のなされることは厳格過ぎるようにも思えるが、作者(創造主)にとって被造物(人間)が粗悪ならば躊躇なく取り除くのはむしろ当然で、ましてや創造主のされることならば、被造物である人間が反論する余地もない。

主に敵対する悪魔が成した最大の仕事は、人間に自分本位に物事を考えるようにさせたことだという。だから人間は飽くことなく偶像崇拜(人造神を信じる)をくりかえす。

生きることは一寸先の未来が見えない不安と背中合わせ。

この世で進もうとする道が安心安全なゴールへの道だとの保証はなかなか見つかるものではない、生命保険など各種保険が繁盛するのも、人が自分本位の考え

方をしているため生じる不安から解放されないのが大きな理由だと思う。

ならば自分中心・自分本位をやめればいいのではないかな、でもどうやって？

自分からはなれる、握って離せないものを手放し代わりに何かを掴む、何かに掴まる。

ボンヤリとその掴まるべきものが見えてくる感じはあります。でも一、弱い自分はこのことで言ってしまう胸の内で反芻するだけにさせて頂こうと、答えは聖書にということ。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ
P172～

団遊

まだブログが目新しかった頃の話。

アソブロック株式会社を立ち上げた当初のぼくは、暇だったことと、ホームページを見てもらいたい気持ちもあって、団遊日記という名で、どうでもいいような小断を書き連ねていました。

ライバルが少ないこともあって、しばらく経つと「読んでいますよ」「笑いました」なんて声が届くようになり、調子に乗って「何か事件に遭遇しないか」と、毎日アクシデントが起こりそうな方へ足を向けては、ネタを拾っていました。ラジオの常番組をしているパーソナリティってこんな気分なんだろうなあと思いながら。

やがて社業が忙しくなり更新頻度が減り、さらに何度かホームページを改修するうちに、バックナンバーもどこかへ行ってしまいました。当時は前しか向いていませんから、そのことを気にすることもなく、20 年が経ち、先日久しぶりに気分が乗ったのと、書きたい出来事に遭遇したので、当時のリズムで原稿を書きました (<https://note.com/danasobu/n/n9dd2f22eb148>)。



すると、「ああ、これだ。これが俺には向いている」と再認識。改めて時々書き連ねようと心に決めたのですが、そうすると過去の原稿が惜しくなってきました。「あれがあれば、何らかの形で公開できるのに」。

もう読めないがゆえに、何か「ものすごく面白いことを書いていた」気もしてきます。それで、そんなことをフェイスブックに投稿してみたところ――。

「ぼく、全部持っていますよ」と、古い友人からリプライが来ました。書いた本人ですら持っていない原稿を、綺麗にそろえて保管している友人。おかげで無事手元に 40 本余りの原稿が手に入ったのですが、同時に「これがデジタルタトゥーか！」と思った瞬間でもありました。

人を育てる会社の社長が

今考えていること

P29～

村本邦子

コロナ禍の状況がどうなのかもうさっぱりわからなくなってきたが、2022 年度を迎え、大学は基本的に対面授業と決まり、日常が戻りつつある。3月にブルース・ウィリスが失語症で俳優を廃業という記事を読み、「自分もこれかも…」とかなり真剣に気になっていた。一定の年齢過ぎてから、人の名前が覚えられないとか、単語が出てこないとかいうことはよくあって、脳の老化は仕方ないとあまり気にしてなかったが、本当に何でもない単語が出てこなくなつて(たとえば「玉ねぎ」とか!)困っていたのだ。春から対面授業となり、症状が少し改善したのを感じて、内心ホッとしている。この2年間、なんとなくのんびりしていたような気がするが、やはり人と会わない、話さないで、言語脳が錆びれてきていたのか!? このひと月、忙しくなりすぎて仕事に追われているが、それはよいことなのかもしれないと自分に言い聞かせている。ほどよく忙しさを加減するのは難しい。

**周辺からの記憶 ―東日本大震災
家族応援プロジェクト―**

P150～

國友万裕

今日は教会に行きました。そこで思いがけず、かつてお世話になった先生が亡くなったことを知らされました。その先生は 80 歳くらいだったはずなので、早死にというのではないのですが、やはり一人亡くなると寂しいです。

これから徐々に周りの人が死んでいくと思います。僕も徐々に人生が先細りになっていくのを感じます。僕の母は 60 過ぎてから人生がひらけた人ですが、僕にはどういいう 60 代が待っているのでしょうか。

これから洗礼を受けるために勉強を開始します。洗礼は「天国へのパスポート」とも言われるとのこと。僕も天国に行きたい。しかし、死んだ後のことは誰にも確実にわからないので、神に祈って、日々を精進するしかありません。

僕は僕自身が傷つきやすい性格なので、できる限り人を傷つけないように生きているつもりですが、でも、どこかで誰かを傷つけてきているんですよね。僕を傷つけてきた人たちも、僕のこともなんか忘れている。傷つけられた方は死ぬまで続くトラウマを背負うけれど、傷つけた方はほんの些細な気まぐれ。

僕の知らないところで僕を恨んでいる人もおそろいいるでしょう。天国に行ったら、それが誰かわかるのでしょうか。

人間って悲しいです。

男は痛い!

P121～

古川秀明

久木山さんとはじめたオープンダイアログが少しずつ広がってきています。こんな嬉しい事はありません。私も年齢を重ね、気がつけば先輩という年上の人と一緒に仕事ができる機会がめっきり減った今日この頃。貴重な先輩にご指導いただく機会に恵まれ、とても幸運だと思います。まだまだおじいさんが二人でがんばりますよー。皆様もどうかご安全に。

講演会&ライブな日々
P138～

西川友理

白鳳短期大学で保育者養成に、その他いくつかの場所で社会福祉士など福祉系専門職養成・および育成に携わっています。

5月20日、対人援助学マガジンの読書会で、私の文章を取り上げていただきました。そして今回の文章はほぼその時に皆さんとお話させていただいたことです。

創刊号から連載する中で、本当にこのマガジンに育てていただいていたんだなあ

と思いました。なぜだか、何がそうさせるのか、といったことはよくわかりませんが、この場を書くことで多くのことに自ら気づかせていただく環境に居らせていただいたのはもちろん、近年では「長く続けたい」と気づくことが増えるなあ」というメタな気付きも生まれてきています。原稿料も出ないのに、レスポンスだってそんなに返ってこないのに、私だけでなく、60 人近くの方がこんなこと(連載)を続けている、不思議な場所です。

お金じゃない、何かを提供して、何かを得ることが出来て、何かが回っているのです。名付けののなら、「知と心の豊かさ」とでもいうものだと思います。たぶん、お金よりも、豊かで、美味しいものです。

読書会を企画運営されたマガジンの編集部の皆さま、参加された皆さん、ありがとうございました。13 年目もどうぞ、よろしく願います。(とかいいつつ、やめる時は突然やめると思います笑)

福祉系対人援助職養成の 現場から P86~

坂口伊都

最近、ラジオを以前よりも聞くようになりしました。この番組と決めてはいないのですが、いろいろなテーマの話をしていることが面白いです。普段気にもしないような風力発電のことを聞いたり、家で上手く作れないと思っていたチャイの作り方を聞いて、試してみたら、意外と美味しくできて嬉しくなっています。

番組途中で曲が入ったりしますが、長時間よく話が續くと感心したり、言葉が詰まったり、あの、えーと、というような話す時の癖も出ず、話のテンポや声のトーンも聞きやすい。練習しているのでしょうか。言葉が次から次へと出てくることに羨ましさを感じます。いろいろな人の話に興味津々な今日この頃です。

家族と家族幻想 P144~

河岸由里子

公認心理師・臨床心理士・北海道

かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

【久しぶりの海外】前回体調が悪かったと書いたことで多くの方からご心配いただい

たが、3 月 11 日にブースターを打ったら(そのせいかどうかはわかりませんが)突然湿疹が治った。そして新年度を無事に迎えることができた。5 月にはアメリカに行く予定だったので、コロナ感染が再び拡大し始めて、やきもきしたが、何とか行くことができた。滞在は友人の家に泊まることになっていて、いろいろお土産やら準備していざというときになって、彼女の旦那様がコロナにかかったという。彼女自身は陰性だと言うが、一緒に住んでいる以上、いくら階を分けても心配である。(実際その後彼女も感染した。)そこでホテルを取ると伝えたら、別の友人と調整してくれて、彼女の家に急遽泊めてもらえることになった。

13 時間余りのフライトはちょっときつかったが、無事に到着し、順調に友達との再会を楽しんだ。ところが、途中で携帯をなくしてしまった。おそらく車から降りるときに落とされたのを気づかず、誰かに拾われてしまったのだろう。いくら探しても見つからないので連絡して止めてもらった。止めたのは良いが、日本に帰るにあたって、MySOS という検疫用のアプリと、COCOA という追跡アプリを入れねばならない。予防接種証明書も携帯に登録されている。すべて整っていたのに、使えない。さて困ったでしょう・・・。



すると友人が、2 年前に亡くなった母親の携帯を持っていけばよいと提案してくれた。そんな大事なものをもらってよいものか、確認すると、母親との別れの一つとして是非持っていってほしいという。彼女曰く、これはきっと彼女の母親がそうして欲しいと言っているのだと。そこで、その携帯を譲り受けることにした。そこから、MySOS や COCOA を入れるのに四苦八苦したが、何とか出来て、こうして日本に帰ってくることもできた。新しい携帯を買い、一安心したところで、友人から連絡。私の携帯が見つかったので送ってくれると。さて、iphone が 3 台になる。どうしたもんか・・・。

ああ、相談業務 P92~

先人の知恵から P194~

岡崎正明

推し活という言葉をと時々メディアで聞くようになった。マニア、フリーク、趣味。どんな言い方をしてもいいが、昔からその概念がちょっと苦手というか、どうしていいか分からないところがあり。その理由は「どこまでそれに関して詳しくなったら、そう名乗っていいんだろう？」ということ。例えば中高生の頃、趣味を映画鑑賞と言いたくて。半分は興味もあったが、半分は義務のように往年の名作を観た時期がある。長くて全然楽しめない小難しい映画も、古臭くて理解できない作品も、なんとなくしたり顔で観たりして。おかげでチャップリンや七人の侍など、心から楽しめる映画にも出会えたのはよかったけれど、最後まで胸を張って映画マニアとは言えなかった。

結局自分が好きなものを楽しむのではなく、他者評価にばかり気を取られていたのだろう。若さもあつたと思う。最近そんなことに気づけて、純粋に好きなことを愛すればいいだけで、別に名乗るかどうかは二の次だと思える。

そんな最近の私の推しは、旅と落語と歴史、ヨシタケシンスケ、大河ドラマ、進撃の巨人、一口馬主、愛猫といったあたりか。多動傾向は昔から変わらずである。

役場の対人援助論 P128~

大谷多加志

ウクライナでの戦争状態が、今号の発行まで続いていることをあまりイメージできていなかった気がします。コロナの時もそうでしたが、どこか事態を過小評価してしまう傾向があるようにも思えます。

先月の 15 日、対人援助学会の研究会と研修・交流部会の共催企画で、「対人援助職者は戦争とどう向き合うのか？ まずは気持ちを寄り添う会」が開催されました。

学会副理事長の村本先生から、以前ウクライナを訪れた時のお話をお聞きし、次に参加者がそれぞれ自分の思いや感じていることを言葉にしていきました。感じていることも思いも、もちろん人それぞれですが、まずは自分の思いを言葉にすること

ができたことにホッとしました。

人々の日々の営みや、これまでに信じてきた価値観が一気に崩されるような思いがしたこの数カ月でしたが、急激に勢いを増した勇ましい言説に流されるのではなく、平和を希求し、平和を擁護することを、愚直に続けていくことを改めて確認する機会となりました。

参加して下さいた全ての皆さんに、感謝申し上げます。

発達検査と対人援助学

P135～

馬渡徳子

いよいよ修士論文の提出期限が後わずかとなり、お尻がカチカチ山の状態ですが、今回は、本文をお休み致します。

以前に、三月発行号を二年連続で、ギリギリ腰となり、本文をお休み致しました。

先輩方から、最終三か月の過ごし方のコツも伺い、コツコツと準備してきたつもりでしたが、五月に入り、校正にて、想定を遥かに超えた修正が生じ、あたふた致しております。

自分の文章の特徴に、今更ながら、こんなにもご指摘を頂くとは、最終年度に及んで、ただ情けない限りです。

連れ合いの家事分担が一気に増えました。

時々独り言のように、ぶつぶつぶやいてますが、七月に鰻の特上でお返しすることで、どうやら納得したようです。(笑)

七月末には、いしかわワークショップで団さんにもお目にかかるし、久しぶりの対面です。これを励みに、気張ろうと思います。それでは、皆様、9月号でお目にかかりましょう。ごきげんよろしく。

馬渡の眼 休載

団士郎

三月下旬から五月中旬まで、漫画家業にほぼ専念していた。いつもとちがう頭や体の使い方を、75歳近くになってやってみると、自分の日常の体内リズムがどうであるのかがよく分かる。

たとえば「木陰の物語」の描き方は4頁34コマで体にリズムが染み込んでいて、長いものを描くととても疲れる。

いつもなら気分転換に文章作業をしたりするのだが、今回は別の新刊本の扉イラスト制作がそれになった。イラストレーター仕事というか、結局根をつめて描いてしまうことになった。漫画家専門は向いていないなあと思っていたが、やっぱりそうだった。

でも、そう思う割には、通常の新作(4月号4頁、5月号4頁)以外に6頁と8頁の新作、そして12頁位になりそうな三本目の下描きをしている。

新作は多分来年、「グラフィック家族理解入門」として、家族理解のための講義・授業などのテキスト用仕立てで刊行の予定だ。

この期間、籠り仕事の意思確認に、ひげを伸ばしてみた。去年もこんなことをしていた記憶があるが、春はそんな季節なのか？

とにかく二ヶ月弱の間、ひげのある感覚を楽しんで、五月十日に終了した。



配偶者を亡くして一年日記(最終回)

P56～

鶴谷 圭一

コロナになってから、土曜日に人を集めるイベントをやらなくなった。お陰で毎週コンスタントに海にサーフィンにいけることが嬉しい。寒い12月～3月頃まではお休みしてるけど、この期間にガクッと筋肉と体力が落ちる。なので春からは毎年リハビリ状態でキツイ。このキツイを乗り越えないと夏にいい波に乗れないので頑張るしかないのです。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ [haramachi.k](https://www.instagram.com/haramachi.k)

ツイッター [haramachikinder](https://twitter.com/haramachikinder)

幼稚園の現場から

P84～

水野スウ

2月に私がケガしてアゴを骨折してしまったことから、今回はマガジン原稿をお休みしました。今号は、私のケガも含め、去年の夏に大きな病気をした娘のこと、手術を受けた夫のこと、あらためてゆっくり振り返りながら綴った、家族の物語の記録です。

その中で書いた娘のリカバリーのプロセスについて、5月に開かれたクッキングハウス総会後の記念講演で「リカバリーと対話は友だち」と題して、娘と私の親子対話で語りあいました。

娘が倒れるまでの日々のこと、発病、そして退院後に自分からクッキングハウスの講座に通い出した娘が、自分にとってのリカバリーを次々発見しては言葉にしていく。

そんな親子対話が10分～15分続いたところで、はい、そこでいったん区切り、とクッキングハウスの松浦さんが言う。隣のテーブルの松浦さんとほか2人のあわせて3人が、今の対話からそれぞれに感じたことを短く言葉にする。それがリフレクティング。そこからまた親子対話の続きがはじまり、リフレクティングを受けて、また対話。それを何回か繰り返していくのを、全体を通して聴いているその日の参加者のみなさん。

「話す」と「聴く」をわけて対話を重ねていく、こういったやり方は、フィンランドの精神医療から学んだオープンダイアログ、開かれた対話、というものだそうです。注意を傾けていねいに聴いてもらうこと、リフレクティングもあること、それ自体が贈りもののように感じる時間でした。対話は完結させない、これからも続いていくのですからね、と最後に言った松浦さんの言葉がとても心に残っています。

きもちは言葉をさがしている

P105～

脇野 千恵

若者の居場所「まちの保健室『ちむちむ』」を始めて3年目に入った。最初の2年は、まさにコロナ禍でもあり、手探り状態だった。「性と生」に特化した情報の提供と相談業務。地域では様々な子どもの居場

所があるが、私たちの目的は、思春期にある子どもたちに、より正しく、科学的に性の知識と情報を伝えることだ。しかし保健室には、若者より対人援助職に関わる人たちからの相談が実に多い。現場での「性」の問題への対応など、関わる大人の知識不足が課題だと感じる。時代とともに、「性」の問題も変化している。

そこで、4月から「基礎からわかる大人のための「性」と生」の学習会」を企画した。6回シリーズだが、参加を呼びかけたところ、一般会社員、学生、障がい者など様々な人からの申し込みがあった。講師は、性教育を長年研究・実践してきたスタッフ達。得意な分野を担当するが、スタッフ自身の学び直しになっていることが何よりだ。

こころ日記「ぼちぼち」part II 休載

中村正

大学院の授業や演習に修了生を招いて「ようこそ！先輩」という名のゲストスピーチをお願いしている。毎年のように何人かを招待する。対人援助や臨床の現場の取り組みの最新の課題を報告して質疑応答をしてもらう。これがすこぶる評判がよく、受講生には刺激となり質問がたくさんだされる。非常勤も含めてカウントすると教師としては35年程になる。その間にずいぶん多くの修了生がいる。応用人間科学研究科だけでも20年程になる。社会人院生が多かったこともあり、現場は実に多様に存在しており、直接の対人援助学ではなくても対人援助的に機能している仕事もあるのだと教えられるし、既存の対人援助や臨床の場にあっても教科書通り、理論通りではない創意工夫をもとに仕事をしている様子が伝わる。

他にも、阪神淡路大震災の後に活発になったNPO分野の開拓もしてきて、「きょうとNPOセンター」を創設したのが1998年だった。当時、大学院生だった活動家たちはもう40代半ばのベテランとなった。この連載で書いているような分野で多様なNPO活動をしているのでここでも人が育っている。フォスタリングソーシャルワーク講座のような社会人向け講座もしている。つくづく人を育てることが好きなのだと思ふし、そう言われることが多い。

しかし私は教師の免許もないし、何の資格もない。授業でも教科書は使わないし、定型的教育はとても嫌いだ。教科書に書いてないことを一緒に考えることが楽しい。もうしばらくこうした作業をつづけながら、次は何をしようかと思案している。私にとっての教科書は暴力を振るって悩む男性たちや、そのことでうまく何かがいえない家族たちなので、学びは終わらない。今日もまた困難や苦勞の相談があり、一緒に考えた一日だった。大学で何かを究明するためにわざわざ苦勞にくる学生や院生の姿とも重なる。考えるということの苦勞のあとには解放が待っている。

臨床社会学の方法 P20～

千葉晃央

車生活を辞めてみた。理由はたくさんある。皆さんが浮かぶいろんな理由で大体あっている。加えて、父が死のギリギリまで運転を辞められなかったのを見てきたのも大きい。ヨレヨレでも車で出かけ、死の少し前ぐらいまで運転していた。秋田の母からは何とか止めて！と京都に電話が数回あった。父はモータリゼーション世代、真っただ中。一度も免許取得後は車がない状況はなかったと思う。

私は違うことをしてみる。いきなりスマホの1日平均歩数が格段に増えた！乗り鉄になったり、買い物をネットに切り替えたり。変わらざるを得ない中での変化ではなく、自主的な変化を作ってやってみた。いろいろなかたちで生活できることを試みておくことが、想定外を少なくできるのではという思いもある。

ヨガを始めた。仕事が変わり、体のメンテナンスが課題だった状況で熱心に誘ってくださる方がいた。誘われたらやってみるのが基本！完成度を目指し過ぎない姿勢、ヨガの世界観、そしてフロアでのヨガ一同士のフラットな雰囲気がいい。その展開で、大学のヨガ部活の世話人にもなった。学生も教員も職員もOGも関係なく、ヨガをしている。ヨガができることに感謝する時間をもつのが、いつものヨガ・セッションの最終段階。戦禍のニュースを見ると心から感謝である。ヨガの起源は紀元前。こういうことも内包されていることが初心者にも伝わってくる。いい先生に出会ってい

るんだなあ。おかげで体の調子も改善傾向。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論
P16～

篠原ユキオ

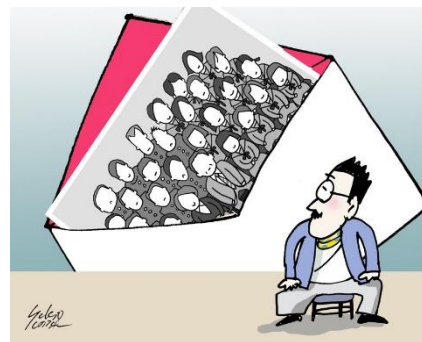
想い出の熟する頃

若い頃、大阪府下の公立中学校で美術の教員をしていた。

とても荒れている中学校だったのですが、辞めたくなくなったが最終的に17年勤めて40歳を前にして脱サラ、漫画家の1本の生活に入った。

それから33年目の今年、最初の教え子たちが中心になって勤務した中学校のすぐ近くの会場で3日間限定の個展をした。

天気には恵まれなかったが、すでに還暦を超えた教え子を中心に卒業年度やクラスも全く異なる人たちがそこで僕を中心に新たな出会いや再会を果たしている光景はこれまでの個展会場にはなかったもので会場はいつも和やかな空気に包まれていた。



思い返せば退職のきっかけは当時の管理職への不信感だった。結果的にはそれが現在の自分につながっているわけで、いつも口癖のように『持つべきものは出来の悪い上司』と言っていたが、最近では『持つべきものは出来の良い教え子』ということにしている。

HITOKOMART
P255～

鵜野祐介

「今回、手話民話の語り部・半澤啓子にZOOMでインタビューをしました。手話を交えたお話だったので、簡単に録画もでき、

繰り返し再生して翻字もできる ZOOM の
便利さを痛感した次第です。

うたとかたりの対人援助学

P200～

中村 周平

現在、これまで私自身が活動してきたこと
をかたちにすべく、行動を起こしました。
この思いに共感してくれたメンバーと一緒
に頑張っています。また、それについても
報告させていただきます。

ノーサイド

P115～

山下桂永子

ここ数年の執筆者短信を読み返してみ
ましたところ、3 年前のゴールデンウィーク
は雨漏りで家が水浸しになり、一昨年度
のゴールデンウィークは献血したら血圧が
下がってぶっ倒れ、昨年のゴールデンウィ
ークはギックリ腰になっていました。今年
のゴールデンウィークはじっとしてはいけ
ないかと久しぶりに友人とお出かけして 30
キロほど歩いたんです。そうしたら、ゴー
ルデンウィーク最終日にやっぱりぎっくり
腰になりました。

何をどうしても何かが起きるゴールデン
ウィークが終わり、飛行機のセール情報を
見て急に旅に出たい気持ちがうずうずとし
てしまい、湿布と痛み止めを飲みながら涅槃
の姿勢で飛行機の予約をポチッと取っ
てしまいました。泊まりの旅行は 2 年半ぶ
り。ガイドブックを見ながらワクワクするの
も 2 年半ぶり。旅へのカウントダウンを楽
しみに日々のお仕事を頑張れるのも 2 年
半ぶりです。

そういえば、今書かせていただいている
対人援助マガジンの内容は、10 年近く前
の話になるのですが、そのころは年に 1 回
ほど海外旅行に行っていました。南米やら
中東やら、今は遠くになりけり。読んで
いただければ幸いです。

心理コーディネーターになるために

P180～

中島弘美

対人援助学会の 2022 年度以降三年の
テーマが示されて、あらたに、「研修・交流
委員会」の委員を担当させていただくこと

になった。今後、300 名以上の学会員の交
流が少しでも深まるように、研究会や、年
次大会において工夫をしていきたいと考
えている。が、そんなすばらしいアイデア
を持ち合わせているわけではないので、
いろいろな方に地道にお声がけをして、つ
ながりづくりを進めていく予定！

カウンセリングのお作法

P36～

竹中 尚文

今回も「ホームレスの個人史」を書けな
かった。コロナ禍が続く中、ホームレスに
インタビューができない。ネタが尽きたの
で、今回も本文は閑話休題。



◆もう40年程まえのことだ。私は仏教
遺跡を調べたくてパキスタンを訪れた。到
着した空港でパキスタン人の列がとても
気になった。彼らはパスポートを握りしめ
て着の身着のままの姿だった。いったいど
うしたのかと尋ねると、これから湾岸産油
国に働きに行くのだという。パキスタンは
イスラム教スンニ派が多く、アラブの産油
国にとっては受け入れやすい労働者だっ
た。私は彼らの虚ろな眼差しを鮮明に覚
えている。 ◆20年程まえに仏教伝播を
調べたくてアメリカ合衆国を訪れた。受け
入れ先が大学院生の寮を用意してくれた
ので、経済的に生活がとても楽だったと記
憶している。調べてみると 1997 年に日本
の平均年収は OECD 諸国中 3 位だったそ
うだ。2019 年には 20 位だそう。今や日
本の一般的な年収は北京や上海の年収
を下回るのではないかという。かつて中国
から法を犯すようなリスクをとりながら日
本に働きに来る人たちがいた。今はもうそ
んな人たちはいない。 ◆これから子ども
たちが成長して働くようになったら、パス
ポートだけを握りしめて外国に働きに行くよ
うになるのかもしれない。自分の子どもや
孫はそんなことはないだろうというのは思
い上がりだろう。政治家や官僚や企業経
営者の無能さを嘆いても仕方がない。学

者が学問の世界に酔いしれていてはなら
ない。宗教家が塙の中で自己研鑽に励む
のも同じである。二千年も前から、宗教を
支え発展させたのは社会の中間層だった
のである。次の世代のために物心とも豊
かな社会をつくる努力をしなければなら
ない。私たちはそんな意志を持ち続けたい。

路上生活者の個人史

P117～

寺田 弘志

全英女子オープンで、渋野日向子選手
が優勝するところを見てから、ゴルフが面
白いと思うようになりました。

テレビでゴルフの試合を見るようになり
ましたが、コースを回ったことはありません
でした。その後家内がゴルフを始め、誘
われて私も始めました。ちょうど60歳で、
60の手習いとなりました。

止まっているボールを打つだけなのに
難しく、見るのとやるのは大違いでした。
ゴルフ練習場やショートコースに通いまし
た。技術的にはまだまだなのですが、ゴー
ルデンウィークに初ラウンドを回ってきま
した。

渋野日向子選手がアマチュアの時通っ
ていた長船(おさふね)カントリークラブで
す。しぶこファンの聖地だけあって、ロビー
では渋野選手が笑顔で出迎えてくれま
す。

(写真ですけどね)

エイジシュートどころか、ダブルエイジシュ
ートになってしまいましたが、渋野選手の
プレーを想像しながら、初ラウンドを楽し
みました。

ゴルフと、接骨院での施術に共通してい
ると思うこと——無理をすれば失敗する。
しかし、思い切ってやらなければ良い結果
は出せない。

接骨院に心理学を入れてみた

P213～

山口洋典

新年度に入り、「3 年ぶりの」という言葉
をよく耳にします。確かに、新型コロナウイ
ルス感染症が 2019 年 12 月 8 日に中国の
武漢で初めて確認されたことに基づき、
COVID-19 と名付けられていることから、

2020 年度当初から、多くの事柄に制限がもたらされることになりました。それから 2 年あまり、いつしか「ニューノーマル」といった言葉も聞かれなくなった 2022 年、まだまだマスクのある生活ではあるものの、「しない」「できない」が前提ではなく、「どうしたらできるか」を工夫しているように思われます。最早「ニューノーマルとは言わないニューノーマル」となってきたのかもしれない。



先日、新潟県小千谷市の塩谷集落へ 3 年ぶりの田植えに行ってきました。新潟県中越地震で大きな被害を受けた災害救援に携わった恩師らの動きに合流して、2012 年度以降は立命館大学の学生もまた集落復興の支援の一環として、田植えから稲刈りまでの過程に参加し、交流を重ねてきていました。3 年ぶりの田植え交流会では、「あと何年こういうことができるか」「家の解体のためのお金は残してあるか」といったつぶやきに象徴されるように、例えば発災直後からの 2 年間、また東日本大震災をはじめとして中越からの支援のリレーが行われた 2 年間などとは全く異なる時間が流れたのだらうと容易に想像できました。裸足になって手植えをしたことにより、田んぼの中でヒルに血を吸われた部分の痒みが数日は消えなかったものの、3 年ぶりの交流を通じて感じた集落を包み込む雰囲気の変化はきちんと覚えておかねば、と胸に刻む交流機会となりました。

PBLの風と土
P207～

見野 大介

GW の信楽作家市も無事終わり、引っ越しのために片付けや荷造りを。正直、2 週間くらいで目処が立つと思っていたけど、全然終わらない。これを書いているのが 23 日、1 週間後には新居で生活が始まっているなんて想像がつかない。住居と工房

を移すことの大変さを痛感。絶対に今回が最後の引っ越しになることを願うばかり。

ハチドリ
P4

浦田雅夫

私事、2022 年 4 月より再び本拠地、京都へ戻り、京都女子大学へ異動しました。前任、大阪成蹊大学の皆さんには、大変お世話になりました。2022 年度は、引き続き、大阪成蹊大学の 4 年ゼミ生を持たせていただいておりますが、なかには児童養護施設へ就職する方もおられます。本当にうれしいことです。

社会的養護の新展開
P81～

小池英梨子

魚屋さん。新しく引っ越したちよっと田舎の家には魚屋さんが来る。毎週水曜日と金曜日。

だいたいお昼の 12～13 時の間に来る。「塩焼きで食べたいです。」とか「大根と一緒に煮たいです」と希望を言うと、それにあったお魚を見繕って、その方法で調理しやすいようにした処理までしてくれる。

最近では、名前を聞いたことがない魚を食べる。という方法にハマっている。



そうだ、猫に聞いてみよう
P184～

劉 強 (リュウ キョウ・LIU QIANG)

最近、この先どのように進めば良いだろうと悩んでいる。本来の予定であれば、今の私は研究調査のため中国に渡航し、どこかのホテルで隔離しているはずだが、コロナの関係で予定した研究調査ができなくなり、結局渡航することをやめた。これからはクリアしないといけない課題がたく

さんあるが、一つずつ片付けていきたい。

また、友人に文書がつまらないと言われたので、これからもっと面白く書くように工夫していきたい。

中国のセクシャルマイノリティ支援
P207～

荒木晃子

2018 年の秋以降、3 年 6 か月に渡り、実務家として研究分担者と事務局を務めた科研の研究プログラムが終了した。本学の法学研究者を代表に、他大学から、法学者を中心に医師、生命倫理学、心理学、社会学など研究者 12 名、他に研究協力者を合わせると総勢 30 名ほどの大所帯で進めたプログラムである。LGBTQ 当事者の多様な家族形成の調査に当事者の協力は必須で、当事者への協力要請や対応は研究協力者である女性医師と共に担当した。調査で出会ったたくさんの当事者の皆さんとは、その後も交流が続いている。研究期間を通して開催した数々の研究会、ワークショップ、意見交換会、報告会、海外調査、フランスから招聘した研究者との公開シンポジウム、最後は 2 月の成果報告会を兼ねた公開シンポジウムと研究企画を無事終了し、安堵の日々を迎え、今は 3 年半ぶりに長期休暇を取っている最中である

その間、プライベートでも大きな変化があった。2 年半ほど前には、長く暮らした豊中のマンションから奈良の実家(築 30 年ほどの戸建て)に転居し、転居直前に 15 年以上共に暮らした愛犬を看取った。現在は 2 匹の愛犬(一匹は元保護犬)と暮らすにぎやかな日々を送っている。引っ越し時に開封できなかった段ボール箱も、そろそろ片付けができそう。奈良には、多くの神社仏閣、美術館以外にも、吉野山をはじめとする美しい自然が残っていて、(自慢じゃないが)まだどこも訪問できておらず、お楽しみはこれからである。

この春、65 歳を迎え、年金生活者となったが、まだ現役の身。必要としてくださる方々がいてくれることが、こんなにありがたいとは…。島根のクリニックもコロナ禍でしばらく足が遠のいていて、院長や可愛いスタッフ、クライアントさんとは、PC の画面越しに会話が続いている。最近では、様々な活動を通し新しい友人もできた。互

いに選りあった人間関係は大切だと実感している。まことに残念ではあるが、関わりたくはないけれど、やむを得ず関わらざるを得ない人との関係が続くことは、どれだけ自身の体と心が疲れるかということも、この間の活動から学んだことのひとつである。

生殖医療と家族援助

P96～

工藤 芳幸

高槻では2年ぶりに芥川にたくさんの鯉のぼりが泳ぎ、季節の催しが戻ってきました。職場の大学でも、90分の対面授業が全面的に再開し、強まった管理の下でどうしても人間関係が希薄になりがちだった日常から、学生間の交流の回復が見られています。私が所属している学部は医療機関での臨床実習を全ての学生に準備する必要があり、世間の動きとは少し温度差があって感染対策を緩めるわけにはいかないところもありますが、それでも学生の表情がだいぶ違ってきたように感じます。良い傾向です。

中学のうち2年間長期欠席していた次女は通学タイプの通信制高校に進学して新たな場に出ていきました。長女もほぼ3年間のフリーター生活を経て、やっぱり大学を卒業して就職したいという結論に至り、この春から大学生になってせつせと京都まで通っています。私も先日2年半ぶりに宮城の実家に帰省しました。この期間に母が難病にかかり、久しぶりに顔を見に行ったのでした。昨年は義父の脳梗塞もあり、親世代の変化も大きくなってきました。仕事上の役割も変化し、毎日大量の文書を書いているのですが、書きたいものほどなかなか進みません。ただ、今のところはそれで良いかなとも思っています。進みませんが、止めてはいないので。今回は休載します。



みちくさ言語療法

休載

両角 晴香

某ドキュメンタリー番組で夫婦間腎移植について取り上げてくださるとのことで、ここ1ヶ月取材・撮影の日々を送っています。昨晩は夫婦でランニング。カメラマンさんがカメラを抱えて我々に並走してくださる姿に胸を打たれたり、ディレクターさんが夫婦間腎移植を掘り下げくださり、ときには心をえぐられることで、新たな発見をいただいております。

夫の腎臓と笑う私 休載